

令和6年度 滝野中学校 学校評価

評価欄にあてはまる数字を書いてください。また、現状（評価の理由）と今後の取組（提案）を記入してください。

4・・よくあてはまる 3・・ややあてはまる 2・・あまりあてはまらない 1・・まったくあてはまらない

| 観点 | 項目 | 実践目標（評価規準）・現状と今後の取組 | | 教職員 | 生徒 | 保護者 | | | | |
|------------------|---|---------------------|---|--------------|--------------|-----|-----|--|--|--|
| | | 実践目標 | アンケート内容 | | | | | | | |
| 学ぶ意欲と力を高める学習指導 | 生徒が主体的に学ぶ授業づくり | 実践目標 | 1. 学力調査等の結果を活かした授業の改善、主体的に学ぼうとする個に応じた課題の工夫を推進する | 3.1 (2.6) | 3.1 | 3.0 | | | | |
| | | アンケート内容 | 授業内容の理解や定着のために主体的に学習課題に取り組んでいる。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・生活と関連づけた教材や課題設定により、生徒の主体的な学びの機会が増やせた。 ・定期的な学習評価や小テストの実施により、生徒の学習意欲が向上した。 ・教員同士が連携しながら教材研究を丁寧に行い、授業の質を高める工夫ができた。 | | | | | | | |
| | | 課題と方策 | ・基礎的な学力の定着が課題である。 ・小テストの実施やレベル別課題の設定を継続して行い、学力の定着を図る。 ・学力調査結果の分析を活かし、学年や教科の課題を明確にした授業づくりを進める。 | | | | | | | |
| | | 実践目標 | 2. 思考力・表現力を伸ばす主体的な読書活動を推進する | | | | | | | |
| | | アンケート内容 | 朝読の時間や休み時間、家庭で読書に親しんでいる。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・朝読の時間には、生徒の読書習慣が定着し、落ち着いて本を読む雰囲気が育まれた。 ・授業や総合的な学習の時間など、教科学習と読書活動を結びつける取組が進められた。 | 3.3 (2.8) | 2.7 | 2.5 | | | | |
| | | 課題と方策 | ・読書が苦手な生徒に対して、読書への関心を引き出す工夫が必要である。 ・図書室の活用を各教科で進め、生徒が様々な分野に関する本に触れる機会を増やす。 ・朝読の時間に適切な本を用意し、学年に合った本を読む機会を与えていく。 | | | | | | | |
| | 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善 | 実践目標 | 3. 生徒が主体的に取り組むために、課題の内容と提示の仕方や協働的な課題解決活動の工夫をする | 2.9 (3.2) | 3.2 | 3.1 | | | | |
| | | アンケート内容 | 授業中、ペアやグループでの学習や話し合い活動に積極的に取り組んでいる。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・日常生活に関連したテーマ設定をすることで、生徒の主体的な学びが推進できた。 ・班活動やペア活動を通じて、協力し合いながら学ぶ姿勢が育まれた。 ・意図的に話し合い活動を取り入れた授業が多く見られた。 | | | | | | | |
| | | 課題と方策 | ・自分の意見を形成し、表現する力が弱い。 ・生徒が自分の考えを持ち、表現できる場を意識的に増やす。 ・課題の内容や提示方法を工夫し、生徒の思考を深め、表現力を高める授業展開を考える。 | | | | | | | |
| 認め合い、高め合う集団づくり | 基礎基本の定着とUDに基づいた指導 | 実践目標 | 4. 「明確なめあて」と「学びの見通し」を提示し、次につながる「ふりかえり」を工夫する | 3.0 (2.9) | 2.9 | 2.9 | | | | |
| | | アンケート内容 | 授業の「ねらい」や「学びの見通し」を意識して授業に取り組んでいる。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・各教科でめあてや見通しの提示が定着し、生徒が授業の方向性を理解しやすくなつた。 ・各教科で振り返りを行い、生徒が学習内容を整理する習慣が定着してきている。 | | | | | | | |
| | | 課題と方策 | ・次の学びにつながる「振り返り」が十分にできていない。 ・単元全体を見通し、次につながる「振り返り」となるよう、内容や方法を工夫し、質を高める必要がある。 | | | | | | | |
| | | 実践目標 | 5. ICTを活用した指導方法の工夫と改善をする | | 2.9 (3.0) | 3.2 | 3.3 | | | |
| | | アンケート内容 | 授業でICT機器やタブレットを効果的に学習に活用しようとしている。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・ICTを活用した課題配信や授業運営が進み、生徒の学習効率が向上した。 ・ICTの活用が日常的なツールとして定着し、生徒・教員ともに活用が進んできた。 | 2.9 (3.0) | | | | | | |
| | | 課題と方策 | ・ICTと紙媒体、黒板の適切な使い分けを意識し、効果的に活用する必要がある。 ・生徒がICTを「見る」だけでなく、制作や発表に活用できるよう指導を行う。 ・家庭学習でのICTの効果的活用を図る。 | | | | | | | |
| | 学習習慣の定着と学習規律の徹底 | 実践目標 | 6. 家庭学習を習慣化できるよう、復習や振り返りを生徒に実践させることで、基礎的・基本的な知識技能の定着を図る | 2.7 (2.7) | 2.7 | 2.7 | | | | |
| | | アンケート内容 | 計画的、継続的に家庭学習に取り組んでいる。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・定期的な課題や小テストの実施により、計画的な学習習慣の定着を図れた。 ・タブレットを活用した課題配信や家庭学習の習慣化に向けた取組が行われたことにより、生徒の学習機会が増えた。 | | | | | | | |
| | | 課題と方策 | ・自主的な学習時間が短く、家庭学習の習慣化には課題がある。 ・ワークやタブレットを活用した定期的な学習課題を設け、家庭学習の習慣化を図る。 ・学習の手引きを活用し、マイチャレ（自主学習活動）への取組を促進する。 | | | | | | | |
| 自己有用感を育む学年・学級づくり | 7. 学習規律を徹底し、主体的に学ぼうとする授業改善や課題を工夫する | 実践目標 | 7. 学習規律を徹底し、主体的に学ぼうとする授業改善や課題を工夫する | 3.0 (2.8) | 3.3 | 3.1 | | | | |
| | | アンケート内容 | 学習規律を守り、集中して授業に取り組んでいる。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・落ち着いた授業の雰囲気が定着しつつあり、学習規律の向上が見られる。 ・5分前行動やチャイム着席の意識が高まり、生徒同士の声掛けや教師の働きかけが良い雰囲気を生んでいる。 | | | | | | | |
| | | 課題と方策 | ・授業中の学習規律を徹底し、指導の継続を図る。 ・リーダー会や専門部の活動により、生徒が自律して動こうとする姿勢を育てる。 ・話し合い活動と私語との線引き、聞き方や話し方など、主体的に学ぶ授業づくり、指導に努める。 | | | | | | | |
| | 9. つながりを大切にした課題未然防止教育や教育相談を充実させ、課題の早期発見・早期対応の徹底を進める。また、タイミングを逃さない指導支援を進める | 実践目標 | 8. 共感的生徒理解と信頼関係に基づく発達支援的生徒指導・支援の推進を行う | 3.0 (3.0) | 3.3 | 3.4 | | | | |
| | | アンケート内容 | 行事や学級活動などにやりがいをもって意欲的に取り組み、仲間との絆や充実感、達成感を味わうことができた。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・職員会議や委員会を通じて、教員間の情報共有がこまめに行われ生徒の情報共有ができるようになっている。 ・家庭との連携を大切にし、保護者と協力しながら指導・支援に努めた。 | | | | | | | |
| | | 課題と方策 | ・学年を超えて全校的に迅速かつ確実に情報共有できる体制を整える。 ・情報共有を具体的な指導支援の実践につなげるために、指導方針を定期的に確認する機会を設け、実施の徹底を図る。 | | | | | | | |
| | いじめ・不登校を生まない居場所づくり | 実践目標 | 10. 家庭との共通理解、連携を基盤に個に応じた計画的・継続的な指導・支援を実践する | 3.2 (3.3) | 3.3 | 3.1 | | | | |
| | | アンケート内容 | 先生たちは、生活実態調査やフリーカード、教育相談などで、生徒の悩みを聞いてくれる。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・校内巡回や休み時間の見守りを通じて、生徒との関わりを増やすことで、問題行動の抑止や生徒理解につながった。 ・教育相談やフリーカードの活用により、問題の早期発見・早期対応ができた。 | | | | | | | |
| | | 課題と方策 | ・生徒の思いや背景をより理解する機会が必要である。 ・日常的な生徒との関わりを大切にし、生徒の変化を早期に察知するなど、未然防止、早期発見・早期対応に努める。 ・職員全体で様々な視点や立場から生徒へのアプローチを行うことで、きめ細やかな生徒理解、生徒支援を継続する。 | | | | | | | |
| | 個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育 | 実践目標 | 11. 家庭との共通理解、連携を基盤に個に応じた計画的・継続的な指導・支援を実践する | 2.9 (3.0) | 3.4 | 3.1 | | | | |
| | | アンケート内容 | 先生たちは、生徒を理解し、一人一人の生徒に寄り添って指導してくれる。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・支援が必要な生徒について、家庭と連携しながら継続的な支援が行えた。 ・職員会議や支援会議などで必要な情報を共有し、対応がスムーズに行えた。 | | | | | | | |
| | | 課題と方策 | ・支援の具体的な手立てを話し合い、実践につなげることが必要である。 ・サポートファイル等、支援が必要な生徒について教職員全体で共通理解を図り、きめ細やかな支援に努める。 | | | | | | | |
| | 自主・自立を育む活動の活性化 | 実践目標 | 12. 生徒会・委員長会・学級活動の主体的な取組を推進する | 3.0 (2.8) | 3.2 | 3.0 | | | | |
| | | アンケート内容 | 生徒会活動や学級活動等で、自分たちで課題を見つけ、解決のための活動を考え取り組んだ。 | | | | | | | |
| | | 成果 | ・生徒会や委員長会、実行委員会などの生徒主体の活動が活発になり、リーダーとしての成長が見られた。 ・専門部の活動を学校全体でつなげ、活性化させたい。 ・教師と生徒で話し合いを重ねながら活動内容を深めていく。 ・学年を超えた委員長会の運営を企画するなど、生徒が主体的に役割を担う環境を整え、リーダー育成の取組を行った。 | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---------|--|--------------|-----|-----|
| 道徳的実践力と人権感覚の涵養 | 実践目標 | 1 2. 教材や指導体制の工夫、研究体制を整え、充実した道徳授業を実践する | 3.4 (2.8) | 3.3 | 3.1 |
| | アンケート内容 | 道徳の時間に、自分でしっかり考え、みんなの意見を聞いたり、意見交流をしたりした。 | | | |
| | 成果 | ・ローテーション授業の実施により、教材研究を深め、学年全体で道徳の授業に取り組むことができた。 ・他の教師の授業を参観し、指導力向上につなげる機会を得ることができた。 | | | |
| | 課題と方策 | ・授業参観の回数を増やし、道徳授業の研究を深める。 ・道徳授業の研究・振り返りを行う時間を確保し、授業力の向上に努める。 | | | |
| | 実践目標 | 1 3. 各教科、活動を通して、多様な価値観の尊重や生命尊厳、情報モラルの向上を基盤にした人権教育を実践する。 | 2.8 (2.7) | 3.4 | 3.2 |
| | アンケート内容 | 一人一人を大切にし、命や情報モラルなど様々な問題について考える機会があった。 | | | |
| | 成果 | ・講演会や日常の指導を通じて、情報モラルや人権意識の向上が図られた。 ・スマホの使い方やSNSの利用の危険性についての注意喚起や情報モラルの指導を継続的に行つた。 | | | |
| | 課題と方策 | ・情報モラルの欠如と指導の必要性が増している。 ・道徳、HRの時間をはじめとする日常的な指導を軸に、生徒会と連携して活動を行うなど、継続的な情報モラル教育を行う。 ・人権教育を計画的に実施し、人権意識の向上を図る。 ・保護者向けの情報モラルに関する啓発を強化し、家庭での指導を促す。 | | | |
| 豊かな心と健やかな体の育成 | 実践目標 | 1 4. さわやかな挨拶、適切な言葉遣い、時間厳守、主体的な清掃活動を徹底させる | 2.8 (2.3) | 3.4 | 3.1 |
| | アンケート内容 | 挨拶、清掃、時間や言葉遣いなど節度ある生活を意識して学校生活を送っている。 | | | |
| | 成果 | ・自分から元気よく爽やかな挨拶ができる生徒が増えてきた。 ・時間を作る意識が向上し、時間を見て行動できる生徒が増えている。 ・生徒指導担当を中心に教職員全体で共通の課題意識を持ち、継続的な指導を行うことで、生徒の規範意識の向上が見られた。 | | | |
| | 課題と方策 | ・清掃活動の取組や言葉遣いの改善をしていく必要がある。 ・教師の統一した指導を継続するとともに、生徒会やリーダー会の主体的な取組により、挨拶・掃除・言葉遣いなど、生徒の自律の力の向上を目指す。 | | | |
| | 実践目標 | 1 5. 地域やひとのつながり、SDGs、健康等、多角的な食育や給食指導を進める | 2.6 (2.5) | 3.1 | 3.0 |
| | アンケート内容 | 健康的な食生活や規則正しい生活、ストレスマネジメントなどについて学び、日々の生活に生かそうとしている。 | | | |
| | 成果 | ・教科や総合学習を通じて、食育の学びを広げることができた。 ・給食の残菜問題に取り組み、徐々に成果が表れつつある。 ・SDGsに関する学習の機会を増やし、生徒の意識を高めることができた。 | | | |
| | 課題と方策 | ・食育のねらいを明確にし、教育活動全体で計画的に実施していく必要がある。 ・給食指導の統一を図り、準備や片付けを徹底するとともに、残菜を減らすための取組を行う。 ・地域と連携した食育活動等、実体験を通じて学ぶ機会を作る。 | | | |
| | 実践目標 | 1 6. 不審者対応訓練、防災避難訓練、交通安全に関する取組を通して、危機管理・安全管理体制の強化と意識の向上を図る | 3.7 (3.5) | 3.5 | 3.2 |
| | アンケート内容 | 防災・避難訓練や交通安全指導を通して、安全安心な生活への意識が高まった。 | | | |
| | 成果 | ・定期的な訓練や講演を通じて、生徒・教職員ともに防災・防犯意識が向上した。 ・交通安全や通学マナーの向上に向けた指導を継続して行い、自転車でのマナーや交通ルールを守る意識の改善が見られた。 | | | |
| | 課題と方策 | ・各地区の通学路の安全確認や引き継ぎを確実に行い、継続して安全指導の徹底を図る。 ・交通立ち番や巡回等を全教職員で分担し、積極的に行う。 ・防災教育を計画的に行い、避難訓練の充実を図る。 | | | |
| 生徒の主体性や対話を重視した部活動 | 実践目標 | 1 7. 生徒の主体性や対話を重視した部活動の運営を進める | 3.0 (3.1) | 3.3 | 3.3 |
| | アンケート内容 | 部活動に主体性や意欲をもって取り組んでいる。 | | | |
| | 成果 | ・部活動指導員と連携しながら運営を進めることができた。 ・生徒主体の活動が増え、キャプテンを中心に練習メニューを考えるなど、自主的な取組が進んだ。 | | | |
| | 課題と方策 | ・部活動の地域移行を見据え、生徒や指導員との対話を重ねながら運営を行う。 ・安全管理を強化し、暑さ指数などのリスクを意識した活動を行う。 | | | |
| | 実践目標 | 1 8. 通信、ホームページ、totoru等を活用したタイムリーな情報発信を行う | 3.2 (2.7) | 3.2 | 3.2 |
| | アンケート内容 | 学校は、通信やホームページ、テトルを活用して、情報を発信している。 | | | |
| | 成果 | ・totoruやHPを活用し、保護者への情報発信に努めた。 ・リアルタイムでの情報共有が進み、欠席連絡や行事報告の利便性が向上した。 | | | |
| | 課題と方策 | ・通信やお知らせをtotoruやホームページを活用して必要な範囲でペーパーレス化を進める。 ・重要な連絡は複数の手段（配信+電話など）でフォローし、確実な情報伝達に努める。 | | | |
| | 実践目標 | 1 9. 家庭や地域との目標・情報共有による、ともに生徒の成長をめざす取組、かかわりを促進する | 2.9 (3.1) | 3.2 | 3.2 |
| | アンケート内容 | 先生たちは親と協力して、生徒の成長のために関わろうとしている。 | | | |
| | 成果 | ・トライアゴ・ウィークや福祉学習、資源ごみ回収、防災訓練など、地域と連携した教育活動が実施できた。 ・通信や家庭連絡を通じて、保護者への情報発信を継続的に行なうことができた。 | | | |
| | 課題と方策 | ・総合的な学習の時間を活用し、地域の方々と連携した活動を増やし、学校・家庭・地域が連携し、子どもを支える環境を構築する。 ・オープンスクールや地域イベント等を通して、学校や地域での取組を相互に伝え合うことで連携を深める。 | | | |
| 家庭・地域から信頼される学校づくり | 実践目標 | 2 0. 体罰・ハラスメント防止研修を行うとともに、注意・相談できる職場づくりに努める | 3.2 (3.1) | 3.1 | 3.4 |
| | アンケート内容 | 先生たちは、授業中に生徒を呼び捨てにせず「さん、くん」づけで呼んでいる。 | | | |
| | 成果 | ・定期的なハラスメント研修を通じて、教員の人権意識が高まった。 | | | |
| | 課題と方策 | ・教員同士の意見交換の場を定期的に設け、相談しやすい環境を作る。 ・意見を言いやすい仕組みを作り、建設的な議論ができるようにする。 | | | |
| | 実践目標 | 2 1. 9年間の学習のつながりを意識した系統性・連続性のある指導、共通指導事項の検討やカリキュラムの実践を行う | 2.9 (2.3) | 3.2 | 3.2 |
| | アンケート内容 | 学習習慣や話し方・聞き方、家庭学習の仕方など、これまで身につけてきたことを継続・発展させようとして取り組んでいる。 | | | |
| | 成果 | ・小中一貫教育に向けた教育計画作りが進み、9年間を見通した教育活動が推進できた。 ・小中合同の研修や出前授業を通じて、教員間の交流機会が増えた。 | | | |
| | 課題と方策 | ・小中合同の研修や授業見学の回数を増やし、小中の取組や学習内容の相互理解を深める必要がある。 ・小学校の学びを中学校で活かせるよう、指導方針を統一し、学びの連続性を意識した授業づくりに取り組む。 | | | |
| | 実践目標 | 2 2. 「出前授業」や「協同研修」や児童会・生徒会交流等で育てたい力・学びの姿を共有し学習・生活習慣を意識した取組を行う | 3.0 (2.5) | | |
| | 成果 | ・出前授業での小中の教師間の連携が深まり、小中一貫教育に向けた意識の向上、学習のつながりを意識した授業づくりが進んだ。 ・児童会生徒会活動や読書活動を通じて、児童生徒が交流し、生徒の自主性やリーダーシップの向上につながった。 | | | |
| | 課題と方策 | ・児童生徒の交流や教職員研修を年度当初から計画し、連携の方向性や目標を明確にして取組の充実を図る。 ・学習だけでなく、学校行事や生活習慣の指導においても小中のすり合わせを行う場を設け、小中の指導の一貫性を強化する。 | | | |
| | 実践目標 | 2 3. 年間行事予定を確認し、先を見た計画的な取組を推進する | | | |
| 小中一貫教育の推進 | 成果 | ・先を見据えた計画づくりが進められ、年間行事予定や授業計画を基に、計画的な取組が推進された。 | 3.0 (3.0) | 3.0 | 3.2 |
| | 課題と方策 | ・分掌ごとに「年間計画（案）」を確実に作成するとともに、分掌の年間の役割をまとめたものを作成し、引き継ぎがスムーズに行えるように努める。 ・必要なデータにアクセスできるよう、データ整理を確実に行う。 | | | |
| | 実践目標 | 2 4. 情報共有し協働しようとする組織づくりに努め、一人一人の能力やよさが発揮される学校・学年経営を行う | 3.0 (2.9) | 3.3 | 3.2 |
| | アンケート内容 | 先生たちは、自分のよさを発揮しながら、力を合わせて教育活動に取り組んでいる。 | | | |
| | 成果 | ・一人一人の教員の良さや持ち味を活かした組織的な働き方が各学年で進められた。 ・生徒指導では学年、学校全体で協力し、問題解決に取り組むことができた。 | | | |
| | 課題と方策 | ・教師間の情報共有、コミュニケーションを十分に行なうことが大切である。 ・情報共有のための事前相談や報告・連絡を密に行い、業務がスムーズに行えるように努める。 ・確実な引き継ぎと分掌内容の共有をこまめに行い、担当した分掌を確実にやり遂げる。 | | | |
| 業務改善・働き方改革の推進 | 実践目標 | 2 5. 令和5年度の実績目標を達成する | 3.0 (3.0) | | |
| | 成果 | ・令和5年度の実績目標を達成した。 | | | |
| | 課題と方策 | ・令和5年度の実績目標を達成するための取り組みを実施した。 | | | |
| | 実践目標 | 2 6. 令和6年度の実績目標を達成する | | | |